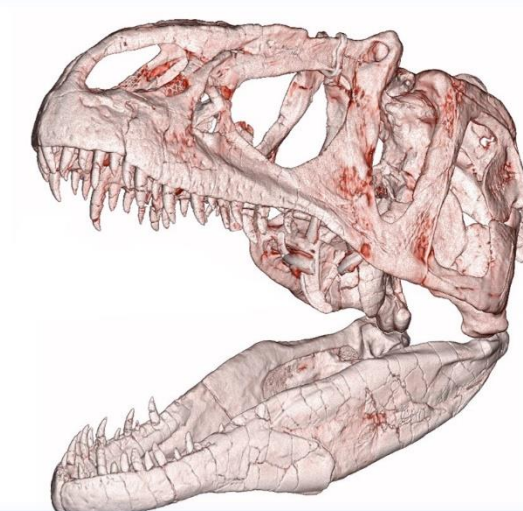




法医学分野



法医学スタッフ
教授：兵頭秀樹(後列中央) 助教：真橋尚吾(後列左から2番目)

法医学

教室では、大学講座の果たす役割「研究、教育、社会貢献」のうち、社会貢献としての法医実務が大きなウエイトを占めています。法医実務ではお亡くなりになった方を対象とする死体検案(解剖を伴わない)や解剖(司法・調査法・承諾)が想起されますが、生きている方を対象とする生体鑑定(疾病/傷害を法医学的知識や技術をもとに判定)や、死後画像や検体検査等の科学的判定を業務として実施しています。

実臨床における法医学の果たす役割は大きくはありませんが、医療事故調査制度のもと調査委員として参画することがあり、医療の安全にも貢献しています。また、昨今、院内で医療者が意図的に患者を殺害する事件が発生していますが、その発見/再発防止等に医療事故調査制度は無力であり、残念ながら多数の犠牲者を発生させるまで気づかれていません。法医学教室では、様々な観点から事象を検証し、院内の安全についても尽力できるよう、医療安全室をはじめとする様々な診療科と協力してまいります。

法医学を通じて医学部学生、大学院生、社会人の教育を行い、科学的な思考を身につけ世界で活躍できる医療人育成を目指しています。テレビドラマの法医学教室のような殺伐とした雰囲気は一切なく、アットホームな教室です。医師、スタッフ一同、学生諸君の来室を心からお待ちしております。



ホームページ

主な研究活動

- 法医学における研究は実務から生まれ、実務に還元されるものでなければなりません。また、本学の応用先進イメージングセンターには全国でも珍しいご遺体専用CT撮影装置およびMRI撮影装置が常設されています。
- そういった背景から、実務に応用できる死後画像に関するさまざまな研究を行っています。
- 得られた成果のいくつかは死後画像読影ガイドラインにも引用され、死因究明に直接的に貢献しています。

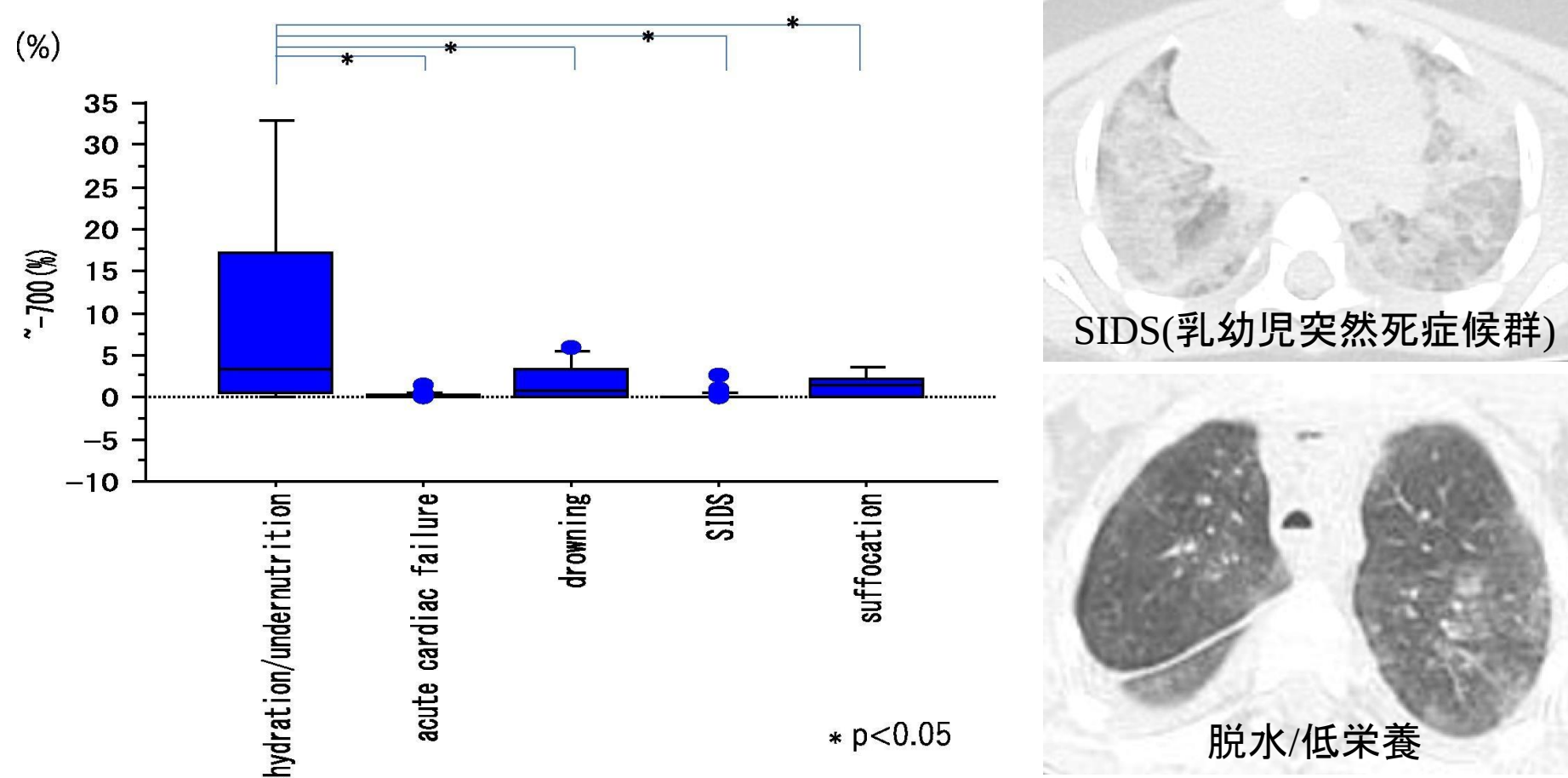
1. Shimbashi S, Hayata R, Matoba K, Saito A, Matoba T, Takeuchi A, Jin S, Hyodoh H. Objective evaluation of chest findings in infants by postmortem computed tomography. *Leg Med (Tokyo)*. 2023 Feb;60:102178.

2. Shimbashi S, Hyodoh H. Postmortem kinetic CT of the cervical spine and an objective index for diagnosing anterior disc space widening: A retrospective utility analysis. *Leg Med (Tokyo)*. 2023 Mar;61:102207.

3. Shimbashi S, Takeuchi A, Yoshimiya M, Jin S, Matoba K, Hyodoh H. Postmortem contrast-enhanced computed tomography via direct large-vessel puncture. *Leg Med (Tokyo)*. 2024 Jul;69:102448.

4. Yoshimiya M, Noriki S, Shimbashi S, Uesaka H, Hyodoh H. Postmortem changes in porcine eyes on computed tomography images. *Leg Med (Tokyo)*. In press.

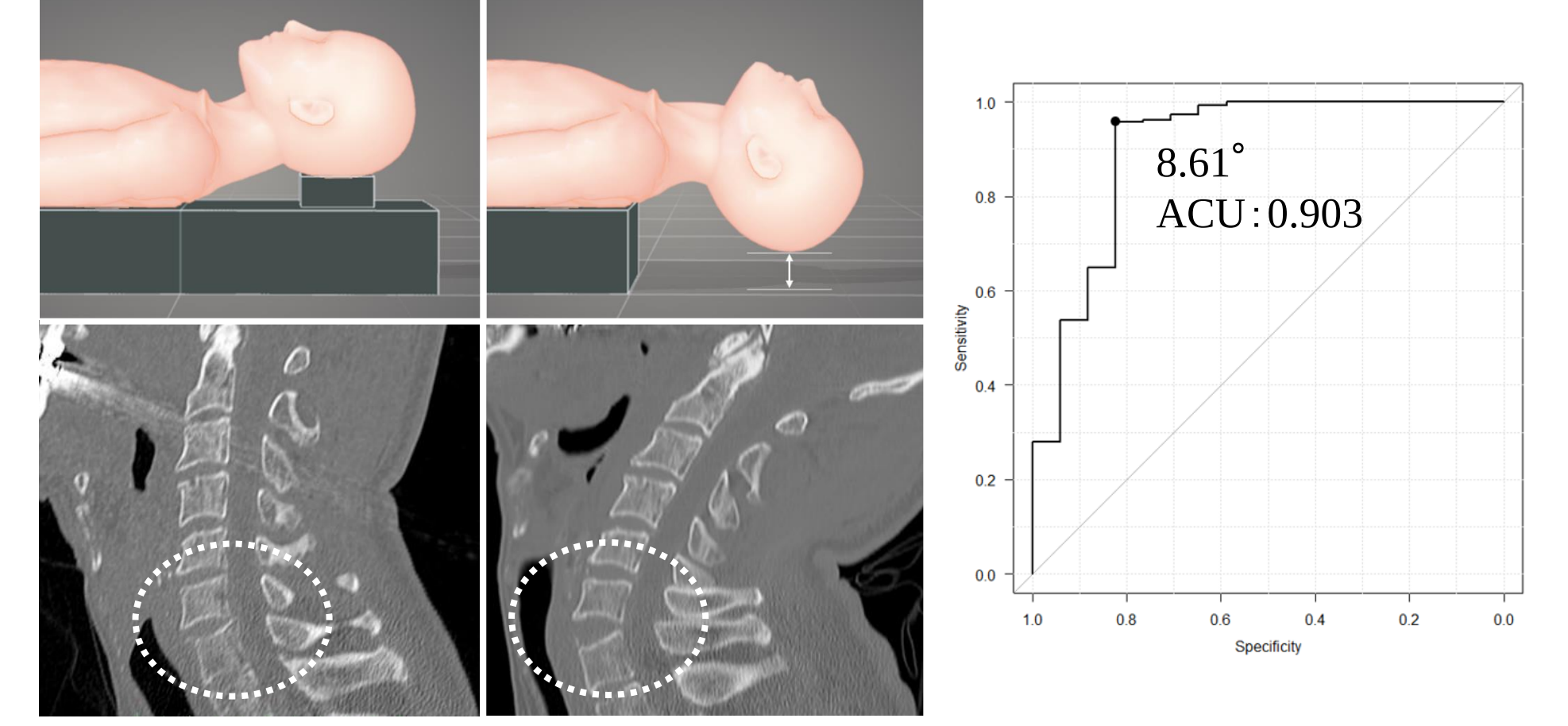
1.



小児において、脱水/低栄養児の肺の%ALVは、その他の死因と比べ高いことを明らかにしました。この成果は、虐待児の鑑定に大いに役立ちます。

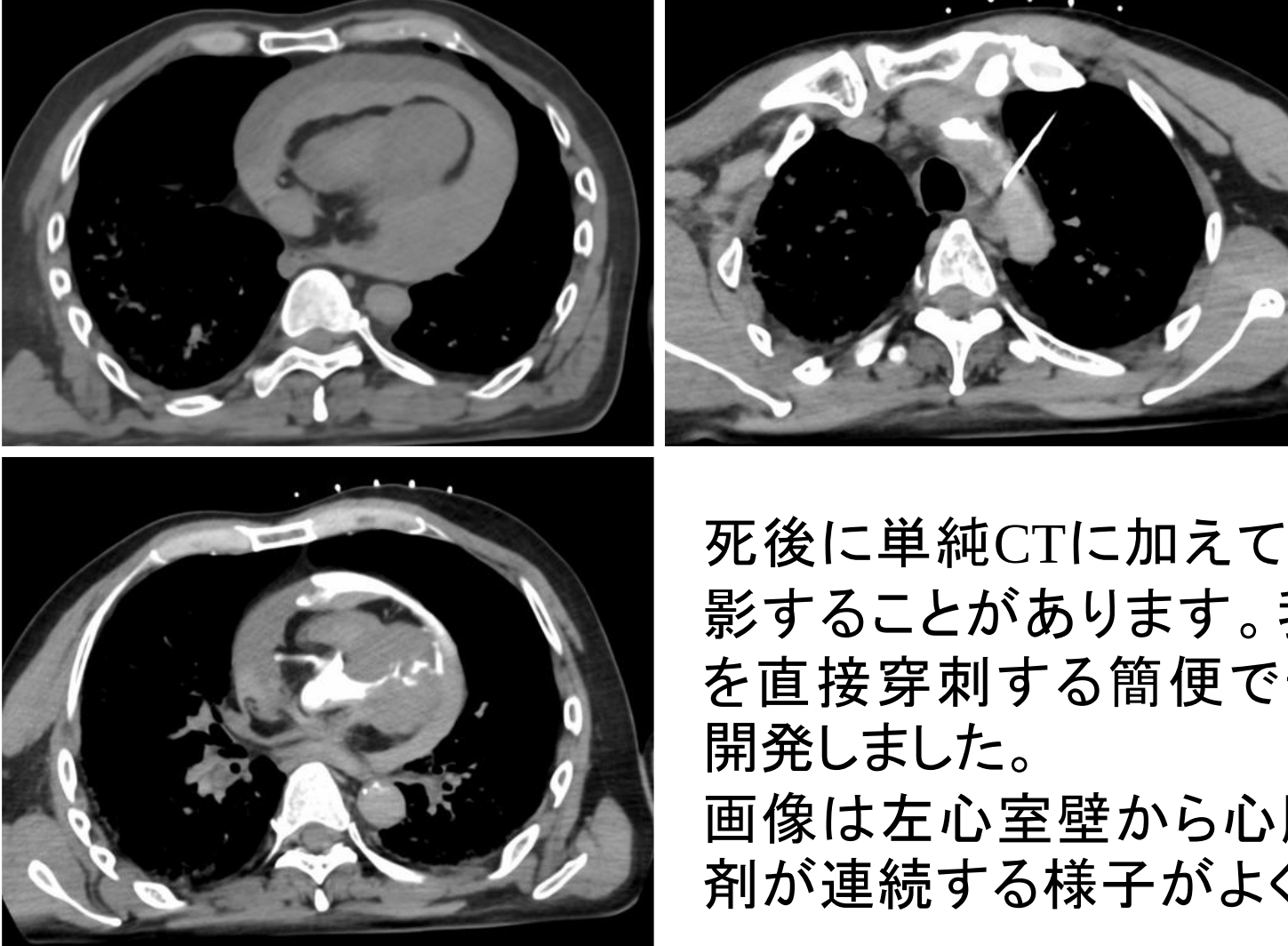


2.



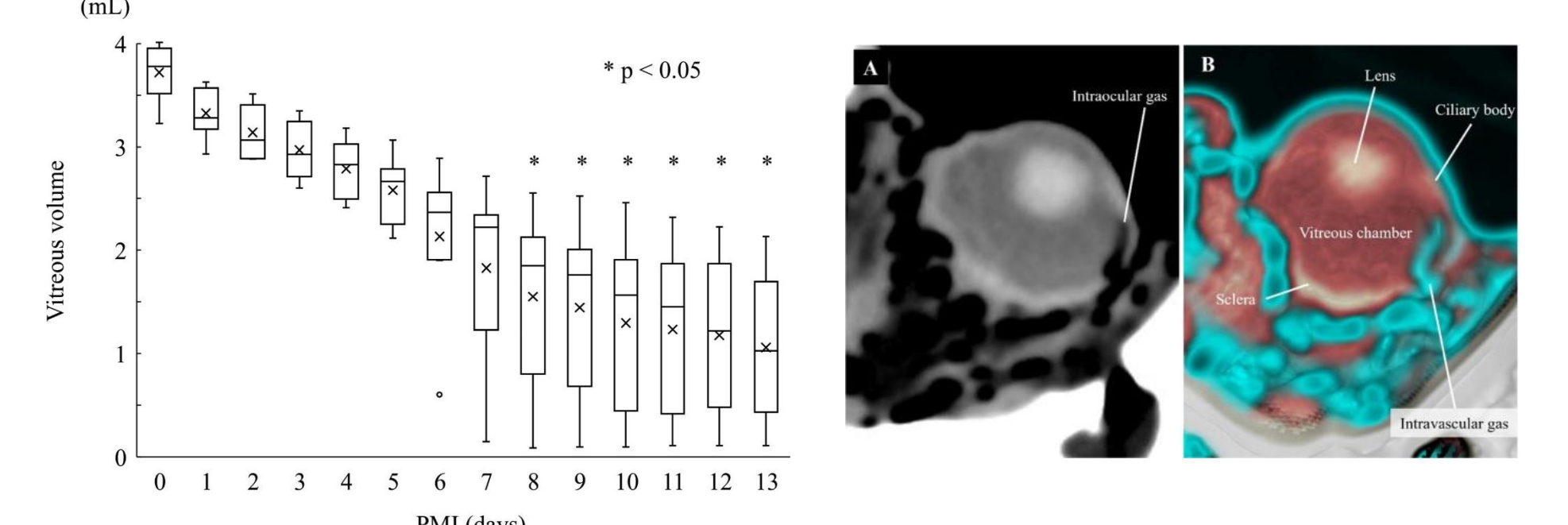
単純死後CTのみで頸椎損傷を診断することは困難ですが、通常の撮影方法に加えて、首を伸展させて撮影する方法を開発しました。この方法により椎間可動域が8.61°を超える場合に頸椎損傷と診断することができるようになりました。

3.



死後に単純CTに加えて、造影CTを撮影することがあります。我々は大動脈を直接穿刺する簡便で安価な方法を開発しました。画像は左心室壁から心膜腔内に造影剤が連続する様子がよく観察できます。

4.



死後に日数が経過するとご遺体には様々な変化が生じます(死後変性、腐敗)。眼球において、体積が減少し、渦状静脈を伝って腐敗ガスが眼球内に発生することを明らかにしました。この成果は、死後経過時間を推定するのに大いに役立ちます。

死因究明業務

- 臨床医の通常業務が診療であるのに対し、我々法医学の主な実務は死因究明です。
- 福井県の警察取り扱い死亡者数は約1200件であり、そのうち約10%に対して司法・調査法解剖が行われています。解剖以外にも、解剖を行わない死体検案を合わせると3分の1程度のご遺体が当施設で死因究明が行われています。
- 現在、法医解剖室は改修工事を行っていますが、来年度から新しい法医解剖室に生まれ変わる予定です。



応用先進イメージングセンター(左:ご遺体専用CT撮影装置、右:ご遺体専用MRI撮影装置)

対外活動

- 福井大学法医学では、国内他施設はもとより国外(米国・EU圏)の法医学施設と連携し、webカンファレンス等を通じて活発な人材交流を行っています。
- 国内の学会だけではなく、国際学会にも積極的に参加しており、2025年5月には福井県で死後画像に関する国際学会(International Society of Forensic Radiology and Imaging)が開催されます。



ISFRI 2025

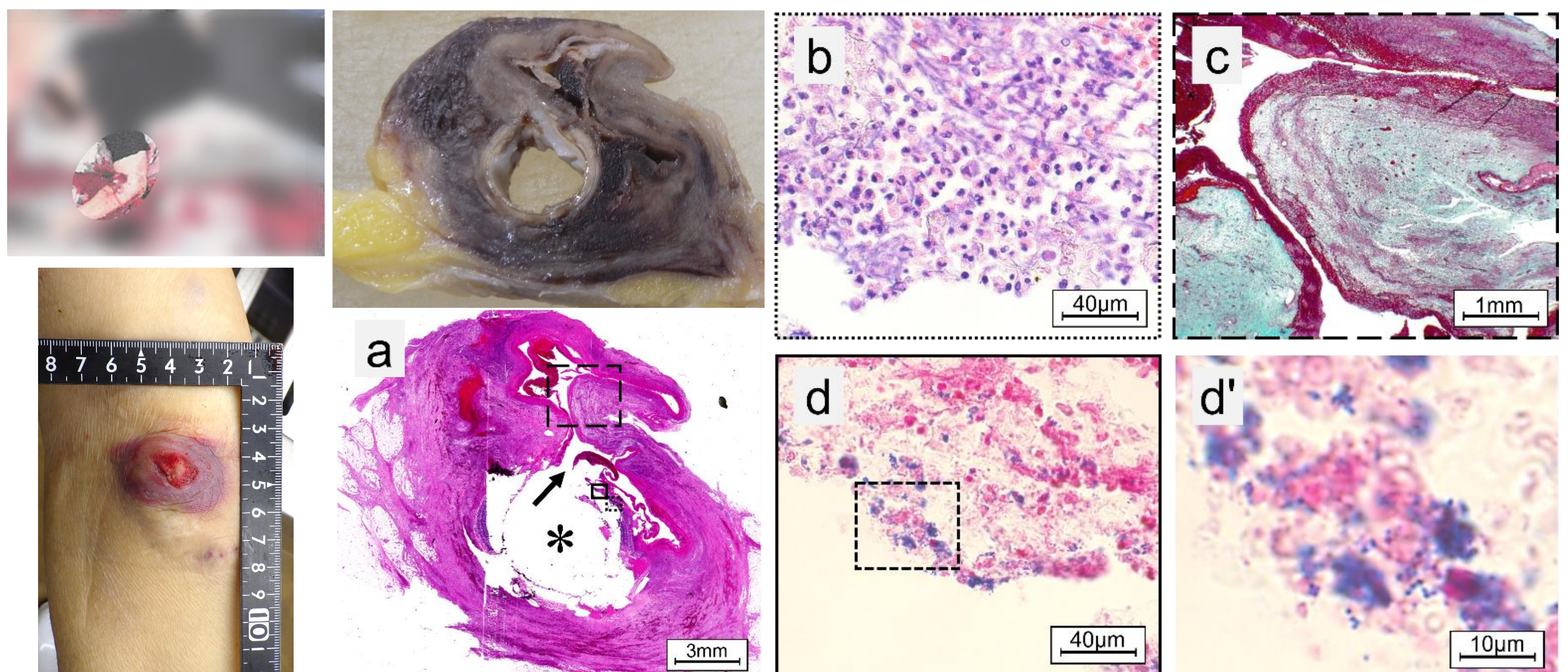


学会ホームページ

学生教育

- 当教室では、学生の死体検案・解剖の見学を積極的に受け入れています。
- 希望者には学会発表や論文投稿の支援・指導も行っており、今年度は将来法医学者を志す医学科4年生の学生さんが、英文の論文投稿と学会発表を成し遂げました。
- 医師国家試験では重要度が低いと言わざるを得ない法医学ですが、臨床医になれば必ず一度は死因究明の場に立ち会うことになります。
- 将来、法医学者を目指す方はもちろん、法医解剖に少しでも興味があるという方も気兼ねなく法医学教室へお越しください。

Tashiro A, Shimbashi S, Yoshimiya M, Noriki S, Hyodoh H. Massive bleeding from an infected pseudoaneurysm in an arteriovenous graft that resulted in death: A case report. *Leg Med (Tokyo)*. 2024 Sep;70:102480.



不運にも人工透析の内シャント(人工血管)が破裂し死亡した男性です。人工血管から外界への血液の通り道(瘻孔)を同定し、好中球やグラム陽性球菌、層状の膠原線維構造から、繰り返す出血と感染の存在を証明しました。

当該学生は解剖から参加し、多少の指導はしましたが、ほとんど自分の手で論文投稿を達成しました。